



大学院医学研究院 生坂政臣教授の最終講義が行われました

令和6年3月をもって退職される大学院医学研究院 生坂政臣教授（診断推論学）の最終講義が、2月22日（木）に医学部附属病院ガーネットホールにて行われました。当日は本学の教職員・学生、学外から多くの来場者が聴講しました。

生坂教授は昭和60年に鳥取大学医学部を卒業後、東京女子医科大学 神経内科に入局。米国アイオワ大学や聖マリアンナ医科大学等での勤務を経て、平成15年より千葉大学教授医学部附属病院 総合診療科の教授に就任されました。平成26年からの4年間は千葉大学医学部附属病院の副病院長も務め、その後、慶應義塾大学 医学部総合診療教育センターでの勤務の後、現在は日本専門医機構 総合診療専門医検討委員会委員長としても活躍されています。「ほとんどの外来疾患は病歴で診断可能である」という信念のもと、総合診療のスペシャリストとして、全国で総合診療および診断推論の普及に努められました。

最終講義は、三木医学研究院長からのご挨拶に続いて、演題『患者の言葉に魅せられて - 総合診療医の推論プロセス - 』についてお話しされました。講義終了後は、横手附属病院長よりご挨拶の後、学生代表による謝辞と、酒井看護学研究院副病院長から花束が贈呈されました。生坂教授の益々のご活躍とご健康をお祈りいたします。



三木医学研究院長によるご挨拶



横手附属病院長によるご挨拶



講演の様子



学生代表による謝辞



花束贈呈